

拜復

今日御手紙拜見致しました

花も愈々盛りとなり花見も所々で催されて

新聞紙上にて見ますかきざし

振うておるに思ひます

小生 昭和十四年兵隊

去まして八年振りに帰る参り 世状の噂ったの

全く困る参り 時々南方みやげのママやに再会

秋戦もせず家に引こもつて居ります

5-13

〔註〕此の書は、明治二十一年（一九一〇）年のもので、本文に入りません。

先日、[赤丸] 北方世話部に御願い致しまして御住所を

北野會致しましては、つきり御判り致しましたから御

一報申上げたいと思つて居りましたけれども、

[赤丸] に本籍と持て居ります故に隊中も

特に同郷出身者は密接にして居りました。

[赤丸] 春には昭和十九年九月病氣にてマニラ野戦病院

に入院、退院せられた後、部隊（独立飛行隊）

に転属された。その時、班長として居

た。

戦局愈々悪化し部隊もマラより北上北郭リン
に位置し飛行機一機も無く飛行機交領のため一機
分の搭乗員は帰國致しましたが遂に我々はナノ剣下
を名北島に残り五月末より山中に入り主流として名
りました山中主流間は非常に元気で斬込みとなるのは
一番にふて出られて存りました

昭和二十一年終戦九月山降マラ收容所に整合せ流
其の間如何に元氣な者でも作業力大なる上に給

無理と云ふ。故谷所、病院入院せられ、戦及として、
今、申し分りない次第であります。が、遂にござらぬまいか。

昭和三十三年七月二三日

山本と

してのよく、帰る参り御遺念族様に對して御報

をすするのものと、躊躇致しました。が、それではかへつて

其靈に對し申し分りぬく、又、少くも息見の事と考へますと

しつとすする事が出来ず、御傳へ申上げたいわけであり

ます。

昭和十四年以來帰郷致した事かなく一度帰郷した
思つて存りますか。何分病氣ばかりして存りましては
思ふ様に出来ず。就職しても出来ず様になれは
希徳する者であります。

先ずは御通知迄にて

気候不順お身体をお大切に

貴様様におまじも宜敷く御信へ下さる

四月五日

殿

57-10

1864

戦歿者確認(證明)書

- 一、死歿者所屬部隊名(通稱號) 雙一大六〇五部隊 (一〇三三三三)
- 一、徵集年昭非 重 現没 兵種 衛生兵
- 一、官等(死歿前) 准尉 (死歿後) 不明
- 一、氏名 比津者、レイ、角
- 一、死歿場所 比津者、レイ、角
- 一、死亡原因分故ニ事由 藥毒多ク飲スルニ因リ
- 一、死歿年月日時 昭和二十一年八月 七日
- 一、死歿者本籍地留守擔當者 妻アリモ不明

右確認(證明)

昭和二十二年三月二十八日

元所屬部隊名 現住所 元官等級 氏名印

註 死亡理由、場所ハナルベククワシク特ニ終戦後ノ死亡ハ明細ニ生死不明ニオツタ者ハソノ前後ヲクワシク告知ラセ下サイ

宛先

地方世話部慰恤係

事實
死亡證明書

本籍地

所屬部隊 飛行第七十三戰隊
(通稱號) 成第261回部隊

昭和二十三年徵集 陸軍准尉

右ノ者 自昭和二十七年九月十九日ノ間比島ニ於テ勤務

シ昭和二十一年九月十九日北島ルン島ニ於テマヤ及赤刺ニ

ヨリ同クマン州ワローニテ昭和二十一年九月十九日死シタル

コトヲ證明ス 牧各所 戦務

昭和二十一年十月二十九日

調製官

陸軍中尉 飛行第七十三戰隊附

2-10

戦死証明書

一、戦死者本籍地

戸主氏名横柄

戸主

三男

氏名

年

月

日生

二、所属

固有部隊名
通稱部隊名

派遣元行第二戦隊部隊

隊

三、戦死者徴集年

昭和十三年

「役種現役」

兵種歩兵

官等

陸軍曹長

任官進級年月日

昭和十三年九月十日

年

月

日

四、戦死ノ場所及年月日時刻

比島、カウヤシ、ラマ、収容所

昭和十三年九月十日

午後三時三十分

五、戦死ノ現認ノ程度

戦病死、後枕頭アリテ立會ス

六、遺骨歸還ノ有無ナシ

七、戦死當時ノ状況ノ概要

終戦直前、疾病シ

終戦後、益々重症トナリ

収容所入所ス

(九月五日)

終戦直前、疾病シ、終戦後、益々重症トナリ、収容所入所ス、(九月五日)

3-14

1867

昭和二十一年九月二十一日

九、其ノ他 (上陸地ニ於テ死亡者ノ遺骸ニ依リ申立テ、部隊編成整理並ニ、幹部等ニテ整理ハルカ、整理決定カ、又ハ不明等記入) 申立濟ナレバ上陸年月日及上陸地

却テ於テ整理スルモノト思付セラル、モ不明ナリ

一〇、遺族ノ現住所

戦死者トノ續柄

父 氏名

右ノ通り戦死セラレタルコトヲ證明候也

昭和二十一年 九月 二十一日

證明者住所

戦死者トノ關係

所屬部隊名兵種

入院ノ際 同室ニ收容ナル

飛行第七十三戦隊

官等級陸軍

中尉

氏名

飛行兵

市町村長證明箇所

右ノ通り相違なき事を證明致します

昭和二十一年九月二十一日

陸軍

印

寫

2-16

3-15

1868

本籍地

所屬部隊

官名 階級 死亡前 少尉

役種 兵種 年次

死亡年月日時

死亡場所

死亡原因

遺骨の有無

遺族現住所

姓名

昭和三年

現認者

所屬

支隊

長官

死 亡 現 認 證 明 書

記 載 上 の 注 意	現 認		者 現 認 事 由	亡		死	
	者 現 住 所	官 界 級 氏 名		現 所 属 部 隊 名	現 明 年 月 日	傷 病 名	本 籍 地
<p>本證明書は、死因を調査し、死亡年月日、死亡場所、死亡原因等を記載し、現認者及び証明者の署名捺印を必要とする。記載事項は、現認者及び証明者の署名捺印を必要とする。記載事項は、現認者及び証明者の署名捺印を必要とする。</p>	[Redacted]	[Redacted]	口收是所より、現認者及び証明者の署名捺印を必要とする。	[Redacted]	マツリヤ(現病名)	[Redacted]	成子立二部隊
	[Redacted]	[Redacted]	成子立二部隊	昭和二年三月七日	比島(現病名)	[Redacted]	成子立二部隊

5-11

隊中一兵兵等時後		國部所	
四四九二盛		相通傳	
		矢没	
		矢没	
() ()		生前	級等
			石氏
			(7897)
			年月
			本籍地
		現任	官位
		年日	死亡狀況
戰死		年月日	
唯度甲 確度甲 確度		場所	
傷痕在		頭部	
		貫通	
		銳創	
		呈高	
		區分	
		天知	
		續補	

死亡
確
認
書

右
確
認
書

昭和二十一年一月十五日

日所屬部隊
日官等類
姓名

住所
年次才一隊

六八二四一號
二〇七〇力
查明
了

地方
事務
課

7-12

局区内
郵便局

證明書

改陸軍備人

右は昭和十一年四月一日第四師破滅の時に微備せられたる部隊改編により第三
船舶輸送司令部及び支那本部が改陸軍備人として引き継がれたる中、この昭和
二十一年七月市川糧秣隊等急輸送作戦に参加中、市川を以て加高高原に
於て敵機之爆撃を受け、胸部に受傷し、この際陸軍病院に入院す。
爾後病院に在りて治療を圖りたるは、是者皆戦線粉砕のちの単独退避
せられたるにのみ消息不明なり、其終戦後米軍収容所に於て加高中
なるを現場也。

昭和三十一年十一月一日

陸軍船舶輸送司令部及び支那本部が改陸軍備人として引き継がれたる中、この昭和二十一年七月市川糧秣隊等急輸送作戦に参加中、市川を以て加高高原に於て敵機之爆撃を受け、胸部に受傷し、この際陸軍病院に入院す。爾後病院に在りて治療を圖りたるは、是者皆戦線粉砕のちの単独退避せられたるにのみ消息不明なり、其終戦後米軍収容所に於て加高中なるを現場也。

193 六一

○何○何

○五○五○五
○才○才○才

○才○才○才
○才○才○才
○才○才○才

○

○

○

○

○

○才○才○才

○才○才○才

○才○才○才

○才○才○才

○才○才○才

○才○才○才

○才○才○才

○才○才○才